

植物野外観察会

— 標本をつくって植物名をたくさん覚えよう —

主催：東京学芸大学理数科教育支援システム構築事業実施本部
担当者：犀川 政稔（東京学芸大学自然科学系広域自然科学講座環境科学分野教授）
岩元 明敏（東京学芸大学自然科学系広域自然科学講座生命科学分野助教）

実施日：平成21年4月23日（木）（中止の場合は当日7:00までにメールでお知らせいたします）

観察場所：高尾町・小仏川～日影沢

参加費用：無料（ただし、交通費と個人の持ち物（P. 2）はご負担ください）

対象：小中学校教員

定員：20名（申込が定員に達したところで締切ります）

申込方法：メールアドレスを明記し、メールで下記あてに申し込んでください
（メールアドレスは雨天中止のお知らせに使います）

申込先/問合せ先：

〒184-8501 小金井市貫井北町4-1-1

東京学芸大学自然科学系 田 艶

e-mail: tianyan@u-gakugei.ac.jp（件名は「野外観察」としてください）

集合場所：JR高尾駅北口改札前
集合日時：平成21年4月23日（木）午前9時30分
解散時間：午後3時（予定）



仔細に植物を観察しよう

庭は唯三坪。狭しと雖も興浅からず。蝶児来りて舞ひ、寒蟬（ヒグラシ）来りて鳴き、小鳥来りて遊び、秋蛩（コホロギ）また吟ず。隣家に花樹多し。風に從ひて、飛花吾が庭に落つ。紅雨霏々、白雪紛々、見るがうちに満庭花の衣を着く。仔細に見れば、桃の花あり、櫻の花あり、椿の花卉あり、山吹の花あり、李の花あり。庭隅に一株の山梔（クチナシ）あり、五月闇（サツキヤミ）鬱陶しき頃、香しき白花を開く。主も妻も無口なれば、此の花の吾が家に開くは宜なりけり。（徳富 健次郎「我が家の富」より抜粋）

持物:

- ごみ袋(採取した植物を一時たくわえる)
- 新聞紙10日分(ベニヤ板2枚に挟む)
- デパートなどの紙袋(ベニヤ板2枚と新聞紙を收容する)
- 剪定鋏
- 根堀または竹べら(幅が狭いものがよい)
- 筆記用具(油性マジックインキなど)
- 弁当、雨具、帽子、運動靴

集合場所で薄いベニヤ板(30×41 cmほど)2枚と自転車のゴムひもを配布します。



ホオノキ

植物たちと名刺の交換をしませんか

私は菌類を研究するためにカナダオンタリオ州のウオータールーに10か月間滞在しました。5月。森に入ると春を待ちかねた落葉樹たちが私に名刺代わりに葉を差し出して自己紹介をするのです。でも私はどの木とも初対面のような気がしません。なぜなら、いずれもガマズミ、ヤシャブシ、ヤマハンノキ、ブナ、アオダモ、ミズナラ、カエデなど私達の森のメンバーとよく似ているのです。ツビツビツピというかん高い、あるいはグジュグジュグジュという呪文のようなシジュウカラの鳴き声やトトトト、トトトトトトというキツツキが木を叩く音を聞きながら森を出ると、そこには葉に褐色の斑点をつけたカタクリや、大きな3枚の葉をもつエンレイソウ、それに夏にはおいしい偽果をつけるだろろシロバナノヘビイチゴを見つけました。もうこうなると菌類どころではありません。いつのまにか森に通じる草原には私専用のけものみちができました。はるかカナダの、はるか昔の思い出です。

(犀川 政稔)